

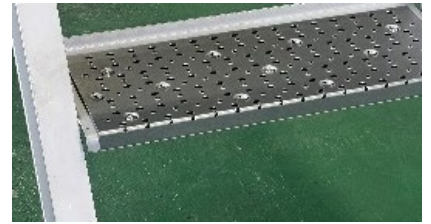
# 第31回 中国地域ニュービジネス大賞表彰制度 優秀賞 受賞企業 受賞事業紹介(五十音順に掲載)

## ①株式会社 伊藤 (山口県光市)

<https://itoh-anzen.com/>

### ○表彰事業

『究極の滑り止め板 くつ底キャッチャー』



くつ底キャッチャー

### ○事業内容

1989年に山口県光市にてステンレス鋼材の販売会社として設立。翌年には加工部門へ進出し、ステンレスやアルミの架台製作、配電盤用の銅バーの金属加工業務を展開している。2011年にオリジナル製品のステンレス製滑り止めの開発・製造、販売を始めた。金属加工のノウハウと経験を活かして滑り止め製品の改良を続け、水、油、粉などが飛散する環境でも滑らない「くつ底キャッチャー」を製品化し、2017年には商標登録を取得した。さらに営業活動の工夫により販売実績が毎年1.5~2倍へと急増している。

この製品の特徴の一つは滑り止め性能の長期維持にある。雨などで水に濡れる階段の滑り対策では、紙やすり状テープやゴムが多く用いられている。これらは3~4カ月で摩耗するため、機能の確認と交換が必要となる。これに対してステンレス製の「くつ底キャッチャー」は5年経過しても摩耗が少なく、長期間取り替えが不要となり、交換を含めたコストを抑制できる。

営業では「業界・場所・滑り要因」毎にニーズや製品の効果を研究して、顧客ニーズをかなえた上でその成功事例を企業内や業界内への水平展開を促した。その結果、鉄鋼、機械、食品、化学、運輸など幅広い業界の企業に工場や屋外設備の「滑り対策」として導入され全国700社で採用中である。

滑り止め板を開発したきっかけは、地元取引先からの「はしごが滑って作業員が危ない」との相談であった。海上自衛隊の潜水艦や救急車、高所作業車などへも導入実績があり、新しい安全文化を創造する事業である。

## ②奥大山の水洗い珈琲合同会社 (鳥取県江府町)

<https://washed-coffee.jp>

### ○表彰事業

『奥大山の水資源を活用した新コンセプトの珈琲豆創出』



奥大山の水洗い珈琲豆

### ○事業内容

2020年に大阪から鳥取に移住し起業。鳥取県江府町のローカル資源である「奥大山の水」と「奥大山」というブランドを活用し奥大山の水で珈琲生豆を洗ってから焙煎した「奥大山の水洗い珈琲豆」を発売開始した。

珈琲焙煎は、珈琲生豆をそのまま焙煎するのが日本を含め、世界中一般的な方法。しかし珈琲生豆には土埃や汚れが付着しており、それが雑味の原因の一つになっている。これを奥大山の清潔な水で洗い流してから焙煎する事で、雑味がなくスッキリした味に変化し、珈琲豆そのものの味を味わえるようになる。「奥大山の水洗い」「高品質珈琲生豆」を背景に高級層をターゲットとしたブランディングを形成、「高くても買う」ポジションを得ることでリピーターを掴むことに成功している。

地域にある水資源の有効活用事例の多くはミネラルウォーターなどの飲料であるが、この珈琲豆は商品に「奥大山の水」の利用を打ち出しており、水資源ビジネスの新しい商品化コンセプトを生み出した事業である。

この事業を実現するために協力して頂いた江府町・江府町商工会・鳥取県商工会連合会との連携を継続しており、『水の町 江府町』として新たなご当地ロゴシールを提案し他カテゴリー商品も含めた「奥大山の水を使用しています」という地域ブランド戦略を展開する準備を進めている。起業当時から地元の方々から協力を得ており、廃校になった小学校理科室を焙煎場として活用するなど、地域活性化を地域一体で取り組んだ事業である。

### ③大和クレス株式会社 (岡山市)

<https://www.daiwa-cres.co.jp/>

#### ○表彰事業

『バクテリアがひび割れを直す自己治癒コンクリートの製造』



自己治癒コンクリート

#### ○事業内容

1964年に創業。土木工事向けプレキャストコンクリート製品の設計・製造・販売を行っており、西日本に5つの直営工場、11の営業所を持ち、道路、橋、山や川の擁壁などの製品を提供。製品の一つとして、自己治癒コンクリートの製造を行い、中国四国地方に展開中である。

自己治癒コンクリートはバクテリアの代謝機能を活用した技術であり、オランダ・デルフト工科大が技術開発。この技術を北海道の曾澤高圧コンクリート(株)がコンクリート材としての量産技術を確立。大和クレスは、このコンクリート材を調達して自社製品化を実現。2022年に自己治癒コンクリート「Basilisk」の特許を取得し製造・販売を開始した。

「Basilisk」は無機物であるコンクリートに有機物であるバクテリアとその餌となるポリ乳酸を配合したコンクリート製品である。このバクテリアは通常、コンクリート製品の中で眠っているが、ひび割れが発生した際に侵入する水や酸素で活動を開始。バクテリアが排出した炭酸カルシウムがひび割れを埋め水漏れが止まり、自己治癒が完了する。

この「生きているコンクリート」は、製品の長寿命化による人々の生活を守る山や川の擁壁などのインフラコストの低減や、コンクリート製造時に発生するCO2削減につながる。また、地元工業高校で開催したSDGs出前授業では、学生が土木建築やカーボンニュートラルへの興味を大きく持つなどの反響があり、社会貢献の価値を生み出す事業である。

### ④株式会社 LIMNO (鳥取市)

<https://www.limno.co.jp/>

#### ○表彰事業

『V.co-Lab を活用した社会イノベーション事業』



V.co-Lab ルーム

#### ○事業内容

1966年設立の鳥取三洋電機のDNAを継承し、子会社を母体に2013年三洋テクノソリューションズ鳥取としてスタート。2023年に(株)LIMNO(リムノ)へ社名変更。通信教育用タブレット端末などを開発・生産する電子機器メーカーとして「ものづくり」に強みを持つ。

2022年より自社のものづくりの技術を活用できるビジョナリーコラボレーションセンター(V.co-Lab)を開設した。ここはオープンイノベーションの価値共創拠点として機能し、個人・団体・法人と共同で社会課題を解決する製品・サービスを量産・販売へつなげる場となっている。

「コワーキングスペース」などの異業種が集う共創拠点は多数あるが、V.co-Labは各種評価・検証設備等を備えており、電子機器を中心とした実際の商品を作り出せる強みを持ち、製品化までが困難なものづくり系のベンチャー支援が可能となっている。新たなビジネスアイデアによる新商品や新サービスについて、設備や技術を貸し出して製品の量産までサポートするという従来の共創活動では見られない事業である。

当事業ではLIMNOと協業先の双方にメリットある場合、利用料を実質無料としており、ベンチャーの事業創出へ強力に後押ししている。また、地域と連携した「シニア向けスマホ教室」や「医療ケア児家族交流会」などを通じて多様な利用者の声を集める活動も行っており、様々な社会課題解決の商品開発を通じて次世代を創造する事業である。